

# 長良川森林計画区

## 第四次国有林野施業実施計画書

計画期間 自 平成23年 4月 1日  
至 平成28年 3月31日

中部森林管理局

この国有林野施業実施計画（以下「本計画」という。）は、国有林野管理経営規程に基づき、国有林の地域別の森林計画及び地域管理経営計画に即し、森林管理局長が森林計画区域内の管理経営する国有林野の箇所別の伐採、更新等について5年ごとにたてる5年間の計画である。

この本計画の計画期間は平成23年4月1日から平成28年3月31日までの5年間である。

## 目 次

1	国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別の区域	1
2	施業群及び生産群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積又は標準伐採量、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量	1
	(1) 伐採造林計画簿	1
	(2) 水源かん養タイプにおける施業群別面積等	1
	(3) 水源かん養タイプの施業群別の上限伐採面積	2
	(4) 生産群別の面積等	2
	(5) 標準伐採量	3
	(6) 伐採総量	3
	(7) 更新総量	4
	(8) 保育総量	4
3	林道の整備に関する事項	5
4	治山に関する事項	6
5	保護林及び緑の回廊の名称及び区域	7
	(1) 保護林の名称及び区域	7
	(2) 緑の回廊の名称及び区域	7
6	レクリエーションの森の名称及び区域	8
7	その他必要な事項	10
	(1) 施業指標林、試験地等	10
	(2) フィールドの提供	10

1 国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別の区域  
国有林野施業実施計画図による。

2 施業群及び生産群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積又は標準伐採量、伐採箇所  
ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量

(1) 伐採造林計画簿

伐採・更新箇所ごとの伐採・更新面積及び方法等については、別冊の伐採造林計画簿に示すとおりである。

(2) 水源かん養タイプにおける施業群別面積等

(単位：h a、年)

施業群	面積	施業の方法等		伐期齢 又は 回帰年
		施業方法	目標とする森林	
小面積分散伐区	231.43	育成単層 林施業	伐区を縮小、分散化させることにより、小流域単位で見た時モザイク的配置となることで、林齢、林相が異なる多様な森林を成立させる。 伐採方法は皆伐による。	スギ 60 ヒノキ 75
長伐期	310.00	育成単層 林施業	主伐は、伐期齢のおおむね2倍以上の林齢において行い、成長の旺盛な時期から主伐までの間に成長に応じた間伐を繰り返し、下層植生の発達した森林を成立させる。 伐採方法は皆伐による。	スギ 120 ヒノキ 150
人工林複層伐	78.54	育成複層 林施業	人工林において、複層伐により部分的に伐採し、人為あるいは天然力により複層林化を図り、複数の樹冠層を構成(階層構造)する森林を成立させる。	スギ 80 [60] ヒノキ 95 [75]

(単位：h a、年)

施 業 群		面 積	施 業 の 方 法 等		伐期齡 又 は 回帰年
			施業方法	目 標 と す る 森 林	
択 伐 複 層 型	人工林択伐複層型	92.64	育成複層 林 施 業	人工林及び天然林において、択伐により部分的に伐採し、人為あるいは天然力により複層林化を図り、複数の樹種及び樹冠層を構成（階層構造）する森林を成立させる。	85 (35)
	天然林択伐複層型	144.82	天然生林 施 業		N 200 L 180 (25~35)
合 計		857.43			

(注) 1 林地以外の土地の面積は含まない。

2 ( ) は回帰年、[ ]は複層林の初回伐採の伐期齡である。

(3) 水源かん養タイプの施業群別の上限伐採面積 (単位：h a)

施 業 群	上限伐採面積
小 面 積 分 散 伐 区	15.43
長 伐 期	10.33
人 工 林 複 層 伐	8.27
人 工 林 択 伐 複 層 型	33.92
天 然 林 択 伐 複 層 型	

(注) 上限伐採面積は、計画期間（5年）分の面積である。

(4) 生産群別の面積等

(単位：h a、年)

生 産 群	面 積	生 産 目 標 等			伐期齡
		樹 種	生 産 目 標	期待径級	
一 般 用 材	53.48	スギ	一般建築材を主とした生産	22cm	60
		ヒノキ	芯持柱材や一般建築材を主とした生産	22cm	75
合 計	53.48				

(注) 1 林地以外の土地の面積は含まない。

2 期待径級は胸高直径である。

(5) 標準伐採量

当該計画区の資源の循環利用林はすべて分収造林契約に基づく分収造林及び分収育林契約に基づく分収林であるため標準伐採量は定めない。

(6) 伐採総量

(単位：m<sup>3</sup>、ha)

区 分		林 地					林 地 以 外	合 計
		主 伐	間 伐	小 計	臨 時 伐 採 量	計		
水 土 保 全	国 土 保 全 タ イ プ			(56.82) 5,362	5,362			
	水 源 か ん 養 タ イ プ	小 面 積 分 散 伐 区		7,004	7,004			
		長 伐 期		1,240	1,240			
		人 工 林 複 層 伐		129	129			
		人 工 林 択 伐 複 層 型		595	595			
		小 計		(85.59) 8,968	8,968			
	計			(142.41) 14,330	14,330			
森 林 と 人 と の 共 生 林	森 林 空 間 利 用 タ イ プ			(6.42) 559	559			
	計			(6.42) 559	559			
資 源 の 循 環 利 用 林	一 般 用 材		4,900	1,585	6,485			
	計		4,900	(14.21) 1,585	6,485			
合 計			4,900	(163.04) 16,474	21,374	2,126	23,500	23,500
年 平 均			980	(32.61) 3,295	4,275	425	4,700	4,700

(注) ( ) 書きは間伐面積である。

## (7) 更新総量

(単位：ha)

区 分		水 土 保 全 林			森 林 と 人 と の 共 生 林			資 源 の 循 環 利 用 林	合 計
		国 土 保 全 種 別	水 源 かん養 種 別	計	自 然 維 持 種 別	森 林 空 間 利 用 種 別	計		
人 工 造 林	単 層 林 造 成		2.70	2.70				2.70	
	複 層 林 造 成								
	計		2.70	2.70				2.70	
天 然 更 新	天 然 下 種 第 1 類								
	天 然 下 種 第 2 類								
	計								
合 計			2.70	2.70				2.70	

## (8) 保育総量

(単位：ha)

区 分		水 土 保 全 林			森 林 と 人 と の 共 生 林			資 源 の 循 環 利 用 林	合 計
		国 土 保 全 種 別	水 源 かん養 種 別	計	自 然 維 持 種 別	森 林 空 間 利 用 種 別	計		
下 刈			34.70	34.70				34.70	
つる切			33.43	33.43				33.43	
除 伐		14.47	49.82	64.29				64.29	

## 3 林道の整備に関する事項

(単位：m)

基幹・ その他別	開設・ 改良別	路線名	林班・箇所	延長	備考
基幹	改良	川 浦	3103~3106	3箇所	60
		川 浦 ( 神 崎 )	3161~3162	1箇所	20
		計		4箇所	80
その他	改良	小 湊 谷	3158~3161	1箇所	20
		円 原	3154	1箇所	20
		鮎 立 中 山	4014~4017	2箇所	40
		中山谷 ( 二日町 )	4019~4022	2箇所	40
		中 山 谷	4023~4024	1箇所	10
		古 城 山	3139~3142、3145~3149	3箇所	480
		計		10箇所	610
合計	開設			—	
	改良	8	14箇所	690	

(注) 災害復旧等緊急を要する工事については、指定箇所以外においても実行できる。

#### 4 治山に関する事項

(単位：保全施設 箇所、保安林の整備 ha)

位 置	区 分	工 種	計画量
板取川最上流 1、美濃 1、神崎川 1、岐阜 1、北濃 1、長良川最上流 2、牛道川 1、吉田川上流 1	保全施設	溪間工	8
板取川最上流 1、長良川最上流 2	保全施設	山腹工	2
長良川計画区管内の保安林区域内	保安林の整備	保育外	76.66
合 計	保全施設	溪間工	8
		山腹工	2
	保安林の整備	保育外	76.66

- (注) 1 保全施設の計画量「箇所数」は「単位流域」数を表す。  
 2 位置は単位流域を表す。  
 3 災害復旧等緊急を要する工事については、指定箇所以外においても実行できる。

5 保護林及び緑の回廊の名称及び区域

当計画区は貴重な自然環境としての天然林等が多数存在するため、国有林野事業の管理経営との調整を図りつつ適切に保護・保存を図って行くこととする。

(1) 保護林の名称及び区域

(単位：h a)

種 類		林 木 遺 伝 資 源 保 存 林			
名 称	新 設 既設別	面 積	位 置 (林小班)	特 徴 等	施 業 等
名古屋 スギ3	既設	9.34	4026い、4027い	当該地の固有な希少品種である伏条性の強いイボラスギの天然林である。	原則として、伐採は行わない。 ただし、保存対象樹種の安定的な存続を図るために必要な場合は、枯損木、被害木の除去を中心とした弱度の択伐を行う。
名古屋 アラカシ・ ツブラジイ 4	既設	10.81	3185ろ、と、る	アラカシ、ツブラジイが混成している都市近郊林である。	
面 積 計		20.15			

(2) 緑の回廊の名称及び区域

該当無し

6 レクリエーションの森の名称及び区域

(単位：ha)

種 類		自 然 観 察 教 育 林				
名 称	新・改 既設別	面 積	位 置 (林小班)	選 定 理 由	施 業 等	
金華山	既設	187.06	3183ろ~ほ	岐阜市にそびえる急峻な独立した山塊で、山頂の岐阜城からは、遠く伊勢湾を望むことが出来る。 シイ、カシ等の照葉樹林の中に、ヒノキ、マツ等の常緑針葉樹が混生し、昆虫、野鳥の宝庫でもあり、自然観察、散策等に適している。	ヒノキ、アカマツ等の天然林を主とし、一部ヒノキ人工林等により構成されている林分である。 天然林については、原則として自然の推移に任せることとする。 人工林については、林内に混入している広葉樹を保残し、針広混交林化を推進する。 展望台等の周辺については、景観に配慮しつつ下層木のシイ・カシ類の常緑樹を整理し、見通しのよい落葉樹林を主とした林分への修景施業を行うこととする。	育成複層林施業  天然生林施業  林地以外
			3184ろ~に			
			3185は~ほ、ち~ぬ、3186ろ、ほ、 ^			
			-----			
			3180い~は			
			3181い			
			3182い~に			
			3183い、^			
			3184い			
			3185い、^			
			3186い、は、に			
			3187い			
			-----			
3180イ						
3182イ						
3183イ						
面 積 計		187.06				

(単位：ha)

種 類		風 景 林			
名 称	新・改 既設別	面 積	位 置 (林小班)	選 定 理 由	施 業 等
大日岳	既設	105.41	4001い、4002 い、4010は ----- 4002イ、4003 イ、4004イ 4005イ、4010 イ	奥長良川県立自然公園内にあり、ブナ、ミズナラ等からなる天然林は、大日ケ岳への登山道、白山への縦走路の近景林として適している。	ブナ、ミズナラ等の広葉樹を主体とした天然林により構成されている林分である。天然林については、原則として自然の推移に任せることとする。  天然生林施業  ----- 林地以外
東殿山	既設	45.15	4034ろ、4035 い、はに 4036い、ろ ----- 4034い、4035 ろ	奥長良川県立自然公園内にあり、木曾ヒノキ、コウヤマキ、ヒメコマツ等の天然林と、切り立った地形が優れた景観を呈しており、郡上市八幡町市街地の背景林として適している。	ヒノキ、ヒメコマツ等を主体とした天然林及びヒノキ等の人工林により構成されている林分である。天然林については、原則として自然の推移に任せることとする。人工林については、林内に混入している広葉樹を保残し、針広混交林化を推進する。  育成複層林施業  ----- 天然生林施業
古城山	既設	71.58	3139わ、3140 ろ~と、ぬ、る、わ 3141い~る、わ 3142い、ろ 3147ほ、る 3148は、り~る、 わ、3149と ----- 3140い、ち、り ----- 3142イ	スギ・ヒノキ人工林とアカマツ天然林からなり、美濃市から望見される遠景林であり、登山、ハイキングの場としても適している。	スギ、ヒノキ等を主体とした人工林及びアカマツ等の天然林により構成されている林分である。人工林については、林内に混入している広葉樹を保残し、針広混交林化を推進する。天然林については、原則として自然の推移に任せることとする。  育成複層林施業  ----- 天然生林施業  ----- 林地以外
面 積 計		222.14			

7 その他必要な事項

(1) 施業指標林、試験地等

該当無し

(2) フィールドの提供

ア ふれあいの森

(単位：h a)

名 称	面 積	位 置	設 定 の 目 的 等
樹遊人の森林 (平成12年度設定)	1.64	3161㍿	ボランティア団体による自主的な 森林整備活動の場を提供するため、 「ふれあいの森」を設定した。 協定相手方：樹遊人塾 協 定 締 結：平成13年度